

# ザン(ジュゴン)のいる海へ

## ～石西礁湖のジュゴン個体群～

### やいまザン研究グループ

(大泰司紀之, 花井正光, 小倉剛, 当山昌直, 石垣金星, 仲盛敦, 島袋綾野, 保尊脩)

#### はじめに

八重山諸島に広がる石西礁湖と周辺海域には、豊かで多様性の高い生態系が形づくられています。特にサンゴ礁(リーフ)の内側にはウミシヨウブやリュウキュウアマモといった海草(ウミクサ)が繁茂し海の中に草原を形成しています。その草原(海草藻場)は様々な生物の営みを支えており、唯一の草食性海生哺乳類であるジュゴンも海草によって育まれる動物です。私たちは、八重山諸島におけるジュゴンの生息域である石西礁湖の保全を通して、ジュゴンの保護・再分布を目標に活動を行っています。

#### ジュゴンとは

ジュゴンは熱帯から亜熱帯に生息し、クジラと同様に完全に海に適應した海生哺乳類の一種です。その穏やかな性格と愛くるしい姿から人魚をイメージさせる動物としても知られています。

また、ジュゴンは草食性であり、特にアマモ類のみを好んで食べることから、その生息に海草藻場は欠かせることができません(図2, 3)。日本では奄美大島から西表島までの琉球列島にのみ生息しており、世界の分布の北限とされています(Nishiwaki et al., 1979)。



図1. 沖縄島で撮影されたジュゴン(朝日新聞2008)



図2. リーフの内側に広がる海草藻場



図3. 海草藻場に残されたジュゴンの食み跡

#### 八重山諸島とジュゴン

琉球列島ではジュゴンは、『ザン』や『ザンノイヨ』、『海馬』と呼ばれ古くからは食料や装飾品などの材料として利用されてきました(盛本, 2004)。

八重山諸島でも、新城島(上地島, 下地島)では税としてジュゴンを琉球王朝へ納めていたことや明治時代に八重山諸島内で200頭あまりのジュゴンが捕獲されていたことが記録として残されています(野底, ; 宇仁, 2003; 図4)。このことから漁獲対象となりうる数のジュゴンが八重山諸島に生息していたと推察されます。

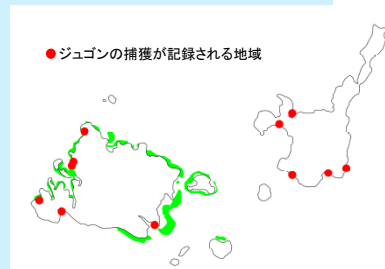


図4. 八重山諸島で記録されているジュゴンの捕獲地

#### ジュゴンのいた海?ジュゴンのいる海?

環境省(1989)によると八重山諸島には約4,000haの海草藻場が存在しており、沖縄島および周辺海域(約1,300ha)や宮古島周辺(約1500ha)に比べても十分な面積が残されています。しかし、1980年以降八重山諸島においてジュゴンの目視、混獲、漂着は報告されていません(図5)。

豊かな海草藻場が現存しているにもかかわらず、その生息が確認されていないことから八重山諸島のジュゴン個体群は地域的な絶滅もしくは絶滅に近い危機的状態にあると考えられます。

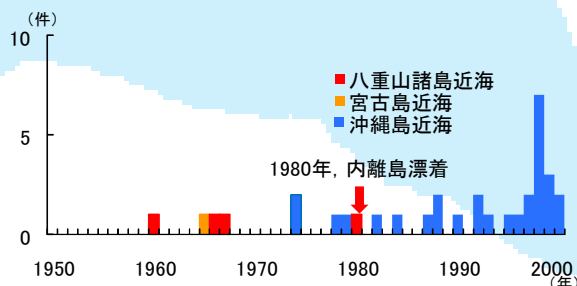


図5. 琉球列島におけるジュゴンの目視, 混獲の発生件数

#### 私たちの活動

私たちは八重山諸島のジュゴン個体群の保存、復元を目的として、現在、八重山諸島で捕獲されたジュゴンの頭骨(図6, 7)を用いて八重山諸島個体群の推察を行っています。これまでの調査結果から八重山諸島周辺海域には定住した繁殖集団が存在していたことが示唆されました(図8)。これにより、生息環境である石西礁湖とその内側に広がる海草藻場の回復・保全によりジュゴン個体群が定着することができる可能性があると考えられます。

石西礁湖とその豊かな生態系の構成要素の一つであるザン(ジュゴン)が泳ぐ姿を再び見るために今後も調査・研究を続けています。



図6. 八重山諸島で捕獲されたジュゴンの頭骨片



図7. 頭骨片から復元したジュゴンの頭骨の一部

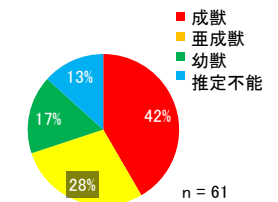


図8. 復元した頭骨の年齢区分